

1 / 2号排気筒ドレンサンプピットの水位低下事象 (移送設備吸込み管の交換について)

TEPCO

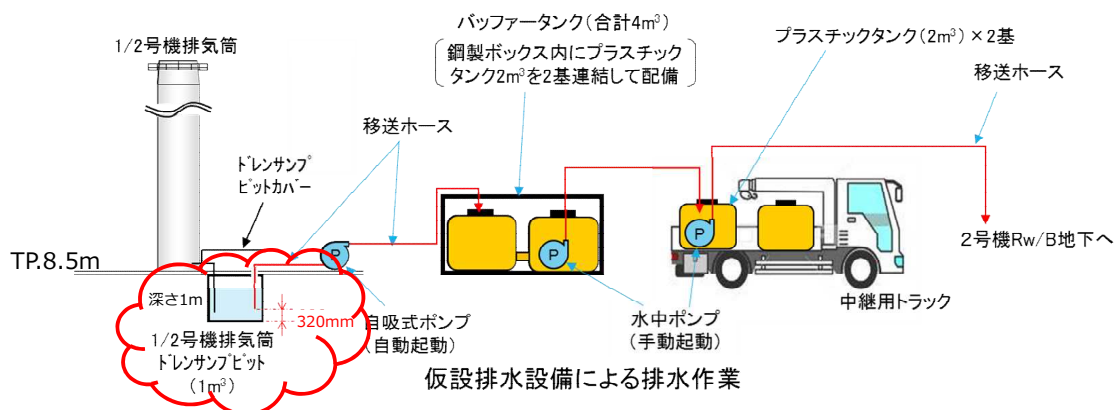
2020年2月27日

東京電力ホールディングス株式会社

事象

TEPCO

- 11/26に、1 / 2号排気筒ドレンサンプピット（以下：ピット）の水位のトレンドデータを確認したところ、移送ポンプが起動しないにもかかわらず、水位が低下する事象を確認した。（通常は1回／日の水位確認の運用）
- その後、過去に遡ってトレンドデータを確認したところ、10/12の台風19号以降当該事象が見られることがわかった（11/27）。
- 水位の低下は底部から325mm程度まで比較的顕著で、それ以降はゆるやか。
- なお、本件については、11/28の10時30分に、東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則第18条第12号「発電用原子炉施設の故障その他不測の事態が生じたことにより、核燃料物質等（気体状のものを除く）が管理区域内で漏えいしたとき」に該当すると判断した。



以下の通り可能な限りの対応を実施していく。

■ 応急的な対策：ピットからの流出の可能性を踏まえた影響緩和対策

- ✓ 水位低下が緩やかとなる325mm以下での水位管理
 (当初) 400mm起動、330mm停止
 (2019/11/27～) 340mm起動、320mm停止（吸込下限値）
 (2019/12/23～) 340mm起動、325mm停止（吸込下限値）※

※移送ポンプの設定値を320mmにしたところ、エア吸込みの兆候が見られたことから、325mmに変更

(2020/02/14) 吸込下限が低くなるよう吸込管を交換（次頁参照）
 →325mm以下での水位管理を開始。

今回報告する範囲

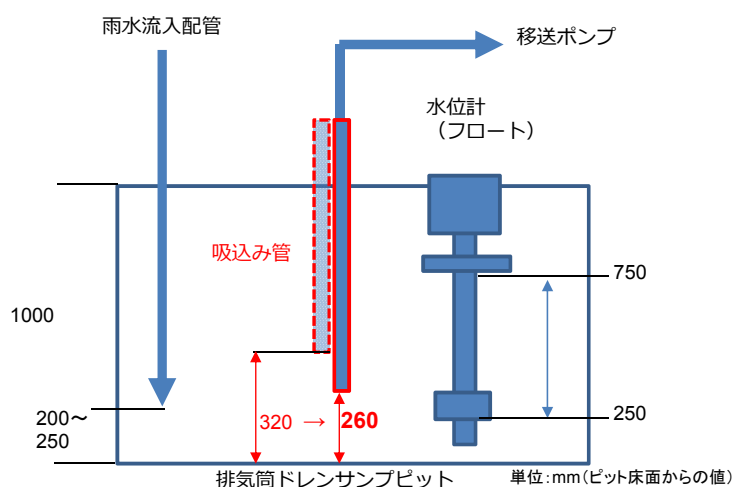
■ 恒久的な対策：ピットへの雨水の流入の防止対策

- ✓ 排気筒解体作業を進め、排気筒上部に蓋を設置する。
- ✓ 並行して、ピットを使用しない抜本的な対策を検討する。

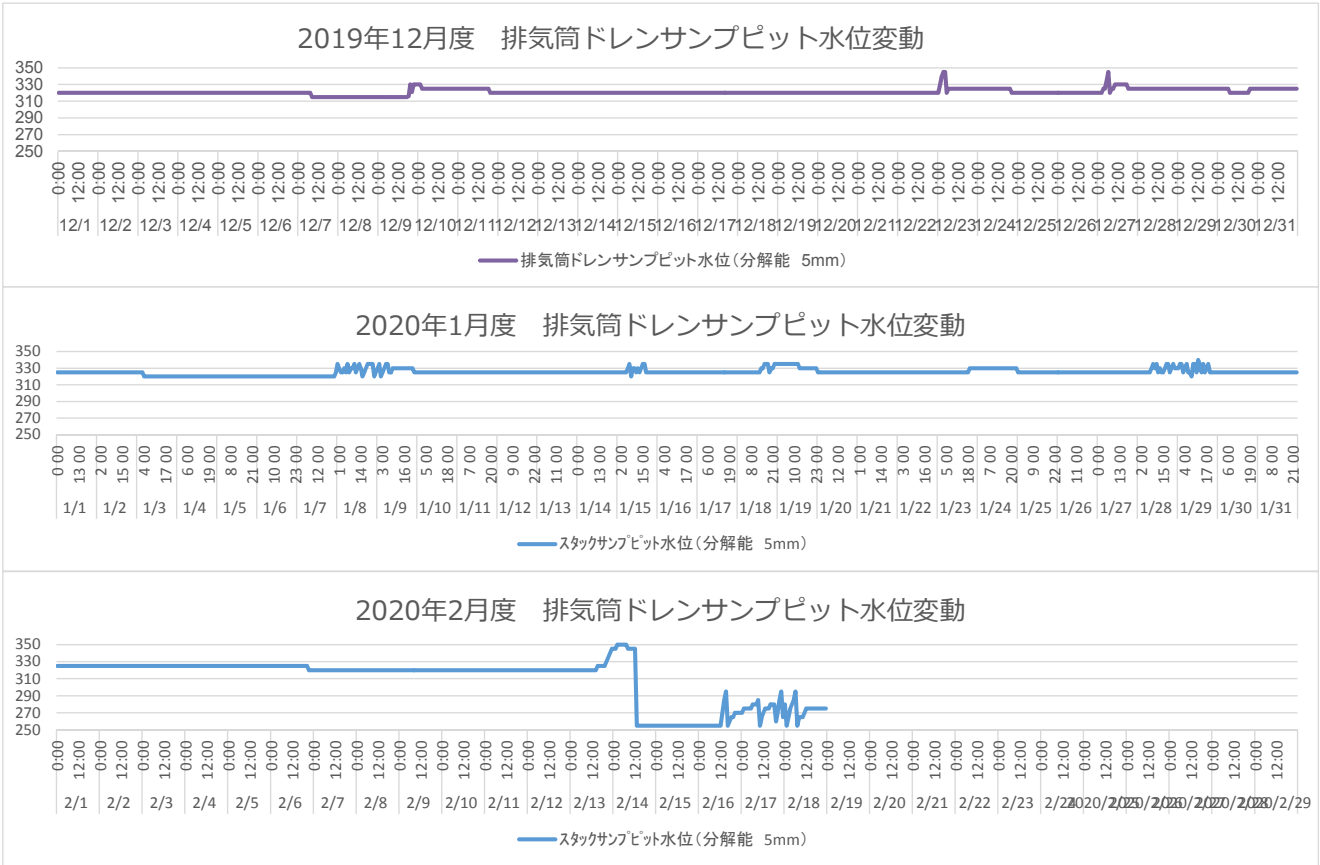
吸込み管交換（2月14日）

吸込み下限値：260mm※（交換前：320mm）
 水位管理：300mm～260mm（交換前：340mm～325mm）

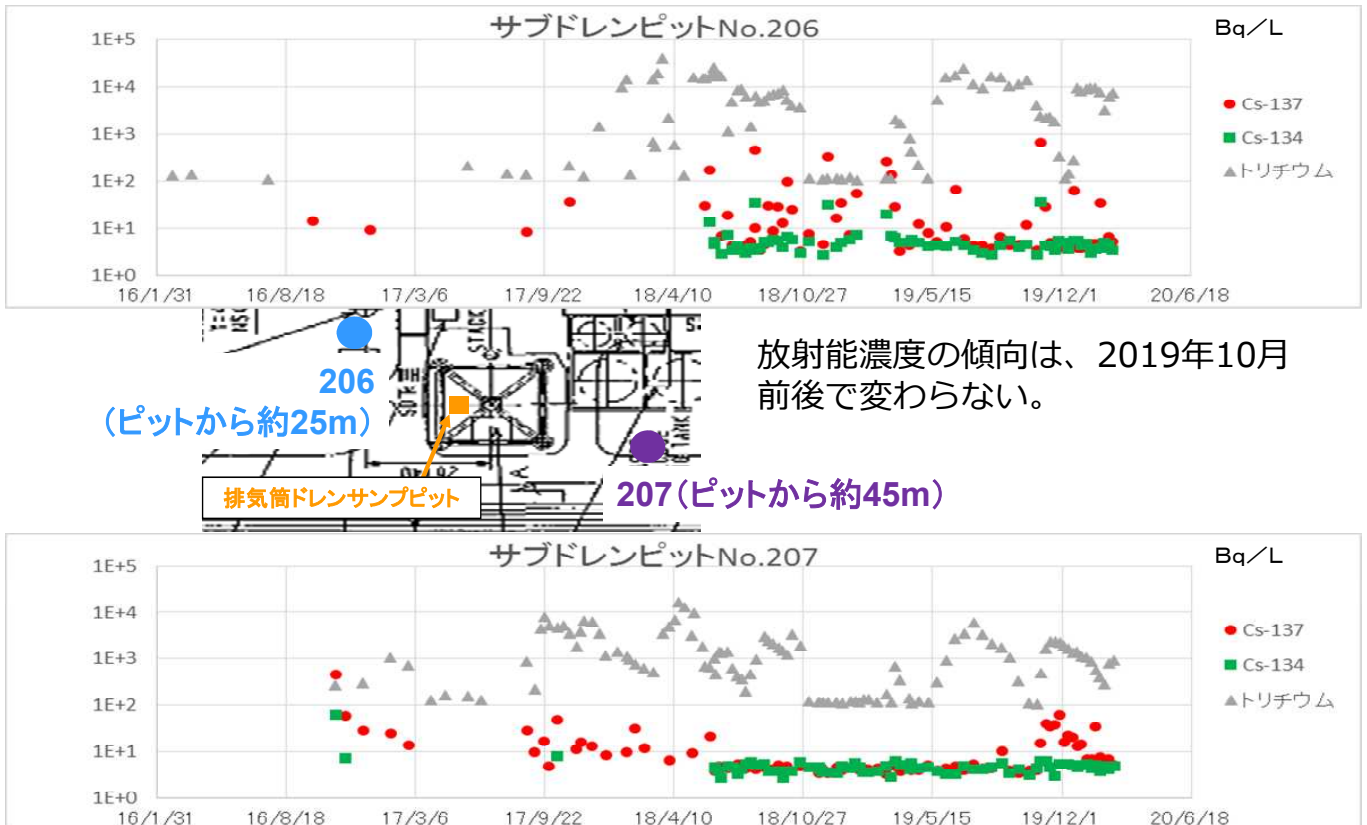
※250mm以上とすることで、雨水流入配管の水封を維持



総被ばく線量：2.73人・mSv
 個人最大被ばく線量：0.54mSv/人
 近傍での作業時間：約2分

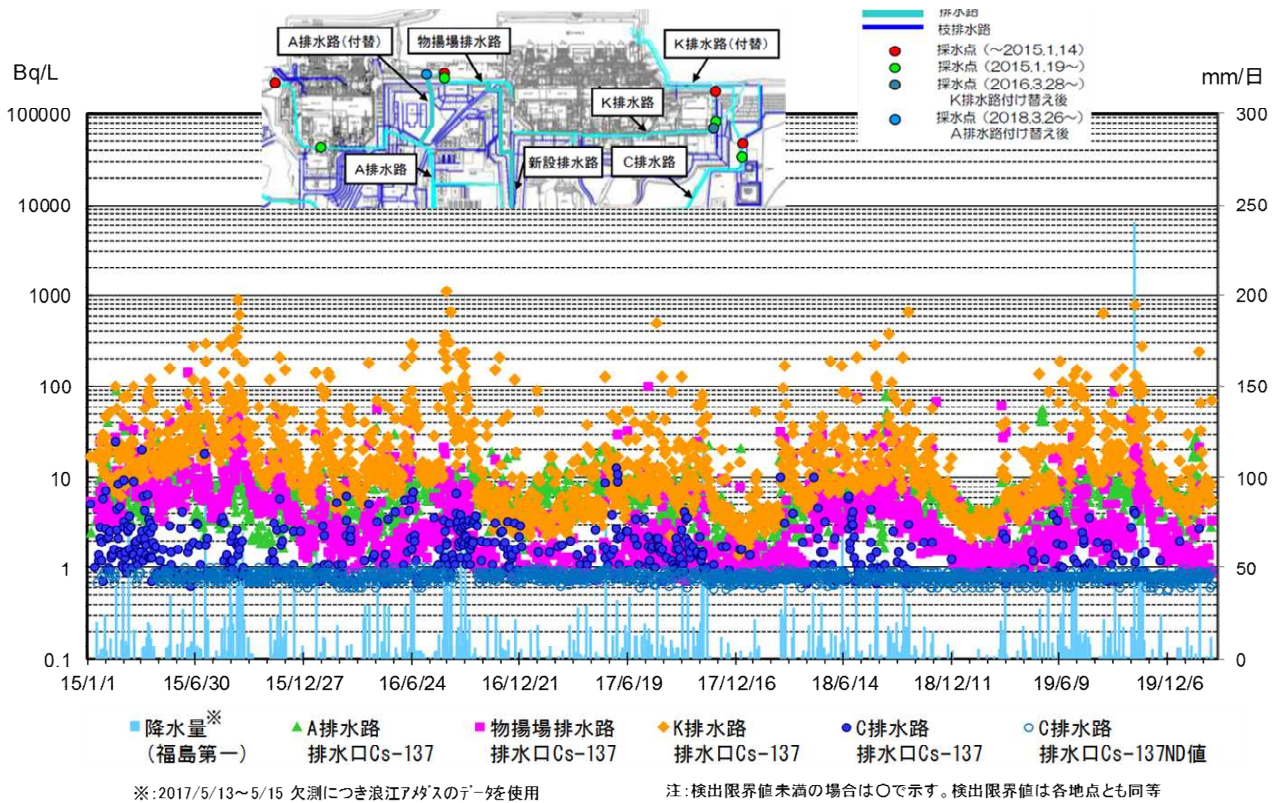


【参考】 周辺の状況 (サブドレンピット)



【参考】 周辺の状況 (K排水路)

<K排水路> 降雨時に上昇する傾向は、2019年10月前後で変わらない。



【参考】 周辺の状況 (港湾)

<港湾内エリア> 降雨時に上昇する傾向は、2019年10月前後で変わらない。

